

金沢工業大学室内管弦楽団

第10回

定期演奏会

日 時

2007年12月1日(土)

開場18:00 開演18:30

会 場

金沢市アートホール (ポルテ金沢6F)

主催：金沢工業大学室内管弦楽団

後援：北國新聞社

テレビ金沢

エフエム石川

ラジオかなざわ

金沢ケーブルネット

金沢工業大学学友会

金沢工業大学文化部会

C O N C E R T P R O G R A M

御挨拶

金沢工業大学

学長 石川 憲一

本日は、金沢工業大学室内管弦楽団「第10回定期演奏会」にご来場戴きまして誠に有難うございました。当管弦楽団も8年前より同好会から文化部会系12クラブの一翼を占めるまでに成長し、本学電気系教授金丸保典先生の熱心なご指導のもとに現在学部生12名、大学院1名、あわせて13名の団員による演奏活動を行っております。

この度の演奏会では、歴史を刻む悠久な時の流れの中で幾多の先人達の魂が織り成してまいりました「旋律の意匠」とも形容されるべき名曲のいくつかを演奏し、ご来場の皆様方にお届け致したく思っております。いまだ未熟さの残る点は何卒ご寛恕賜り、最後の演奏までごゆっくりお楽しみ戴ければ幸いです。

最後になりましたが、本管弦楽団に対しましては今後共皆様方の暖かいご支援、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます次第であります。

金沢工業大学 室内管弦楽団

顧問 金丸 保典(電気系教授)

本日は、金沢工業大学室内管弦楽団「第10回定期演奏会」に御来場いただきまして、誠にありがとうございます。本演奏会を開催するにあたり、日頃より暖かく励ましていただきました皆様、心よりお礼申し上げます。「オーケストラ・アンサンブル金沢」のメンバーの方々をトレーナーとしてお迎えし、貴重なアドバイスを得て演奏法の向上を図るなど、団としては着実に成長を重ね、ここに第10回目の定期演奏会を迎えた事を心より嬉しく思います。

団員の中には大学に入学して初めて弦楽器を手にした学生諸君もおりますが、本演奏会に向けて一步一步着実に努力を重ねて参りました。特に今年は、バーセル、ブリテンの名曲をプログラムに取り上げました。第10回目の節目を迎え、日本各地にいるOB、OGの特別参加も企画しましたので、印象に残る演奏会になることと思います。

まだまだ未熟な演奏ではございますが、最後までごゆっくりお楽しみいただければ幸いです。

今後とも、相変わらずの激励のほどよろしくお願い申し上げます。

Program

プログラム

モーツァルト *Wolfgang Amadeus Mozart*
アイネ・クライネ・ナハトムジークより第一楽章

ジングルベル

私のお気に入り

パーセル *Henry Purcell*
アプテラザール組曲

1. Overture
2. Rondeau
3. Aire
4. Aire
5. Minuett
6. Aire
7. Jigg
8. Hornpipe
9. Aire

休憩

バッハ *Johann Sebastian Bach*
主よ、人の望みの喜びよ

※OB・OG演奏

バッヘルベル *Johann Pachelbel*
カノン

※OB・OG演奏

ブリテン *Benjamin Britten*
シンプル・シンフォニー

1. Boisterous Bourree
2. Playful Pizzicato
3. Sentimental Saraband
4. Frolicsome Finale

Program Note

曲目解説

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト
Wolfgang Amadeus Mozart (1756~1791)
アイネ・クライネ・ナハトムジークより第一楽章

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルトは最も有名なクラシック音楽の作曲家の一人として名高く、ハイドン、ベートーヴェンと並ぶウィーン古典派3巨匠の一人です。「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」は、彼が13番目に作曲したセレナーデであり、この第一楽章はクラシックを聴かない人でも知っていると思われる程に有名です。この曲を原曲としたポップスなども多く存在し、モーツァルトが亡くなってから200年以上経った現代でも多くの人に愛されるクラシック音楽の代表曲です。

ヨハン・パッヘルベル
Johann Pachelbel (1653~1706)
カノン

今回、演奏させていただくのは「3つのヴァイオリンと通奏低音のためのカノンとジグ ニ長調」の第1曲です。ドイツの作曲家、ヨハン・パッヘルベルが作曲したカノンであり、パッヘルベルのカノンの名で広く親しまれており、パッヘルベルの作品のなかで最も有名な曲で、1680年頃に作曲されたと言われています。

曲の構成は低弦の通奏低音を伴いながら、3つのヴァイオリンが同じ旋律を2小節ずれながら演奏し、同じ和声進行を28回繰り返す構造をしています。この進行が俗に「カノン進行」とよばれ、非常に快く耳に響くため、バロック期から現代に至るまで多くの作曲家が愛用しています。また、作曲の初心者が作った曲には、不思議と似通った進行が現れることから、この進行の快さや使いやすさを理解することができます。

ヘンリー・パーセル
Henry Purcell (1659~1695)
アブデラザール組曲

「アブデラザール組曲」はヘンリー・パーセル（イギリスの作曲家、1659年9月10日?-1695年11月21日）が作曲した劇付随音楽です。

パーセルが活躍した時は17世紀のイギリスであり、イタリアやフランスの影響を受けつつ、独自の音楽を生み出したことで知られています。

彼の作曲した「アブデラザール、またはムーア人の復讐」は下記に示した全9楽

1. Overture
2. Rondeau
3. Aire
4. Aire
5. Minuett
6. Aire
7. Jigg
8. Hornpipe
9. Aire

章で構成されます。特にRondeau（第2楽章）は今回、共に演奏する「シンプル・シンフォニー」の作曲者であるベンジャミン・ブリテンがオーケストラ編成に変更した「青少年のための管弦楽入門」でも有名です。「アプデラザール組曲」のイギリスらしい爽やかな弦楽の中に、パーセルならではの微妙な和声の移ろいや、一つのフレーズが終わる前に次のフレーズに移っていくような独特のメロディを味わっていただければと思います。

ベンジャミン・ブリテン
Benjamin Britten (1913~1976)
シンプル・シンフォニー

ベンジャミン・ブリテンはイギリスの作曲家・指揮者・ピアニストでイギリスを代表する音楽家です。

「シンプル・シンフォニー」は、ブリテンが1933年から1934年にかけて作曲した弦楽オーケストラ、または弦楽四重奏による4楽章から成る楽曲であり、彼が9歳から12歳の間に作曲した習作的なピアノ曲及び歌をもとに弦楽合奏曲という形で再編したものです。

それぞれの楽章については以下の示した通りです。

第1楽章：Boisterous Bourrée（騒々しいブーレ）

1926年の組曲第1番、1923年の「歌」によるソナタ形式。快速かつリズムカルに演奏することが求められます。この楽章は各パートが主旋律を交代しながら演奏するので、いかに上手く次のパートに主旋律を渡し、全体として一つの旋律になれるかが演奏の鍵となっています。

第2楽章：Playful Pizzicato（おどけたピッツィカート）

1924年のスケルツォ、同年の「歌」による複合三部形式。できる限り急速かつ、つねにピッツィカートで演奏する楽章であり、ピッツィカートとは弦を指で弾く奏法でヴァイオリン属の弦楽器には欠かせない奏法の一つです。普段、弦で奏するものとは違った音色に注目してお楽しみを！！

第3楽章：Sentimental Saraband（感傷的なサラバンド）

1925年の組曲第3番、1923年のワルツによる複合三部形式。第3楽章は遅く、そして重々しく奏でられますが、哀愁を帯びた中にも美しい旋律があることで知られています。観客の皆様は、演奏者達がいかに感情を込めて演奏するかをお聴きください。

第4楽章：Frolicsome Finale（陽気な終曲）

1926年のピアノソナタ第9番、1925年の「歌」によるソナタ形式。全ての楽章の中で最も速く、楽譜にもPrestissimo con fuoco（極めて急速かつ火のように）と記されています。うっかりしているとあっという間に終曲するのでご注意ください。

トレーナー紹介

坂本久仁雄：ヴァイオリン

武蔵野音楽大学音楽学部器楽学科を卒業後、米・ウィスコンシン州立大学、ノースウェスタン大学大学院、同大学ディプロマコースにて学ぶ。シカゴ・シンフォニーエッタで活動したのち、平成6年よりオーケストラ・アンサンブル金沢ヴァイオリン奏者となる。

石黒 靖典：ヴィオラ

昭和音楽大学卒業。兎東俊之氏に師事する。オーケストラ・アンサンブル金沢ヴィオラ奏者となった後も、アンサンブル金沢のメンバーによる“菊アンサンブル”を結成し毎年ミュージックフェスティバルに参加するなど室内楽等の研鑽も積む。

大澤 明：チェロ

京都市立芸術大学で黒澤俊夫、上村昇各氏に師事する。フィレンツェでフランコ・ロッシ氏、ニューヨークにてハーヴィ・シャピロ氏に学び、各地でリサイタルを行うなど積極的に活動を続けている。現在オーケストラ・アンサンブル金沢チェロ奏者。

今野 淳：コントラバス

横浜出身。17歳の時コントラバスを中博昭氏に師事。1983年、洗足学園大音楽学部器楽科を卒業。のちフリーとして活動。1988年、オーケストラ・アンサンブル金沢コントラバス奏者になり現在に至る。

【指揮者紹介】金丸 保典 プロフィール

- ・金沢泉丘高等学校卒業
- ・金沢大学工学部電気工学科入学、金沢大学フィルハーモニー管弦楽団に所属しヴァイオリンを始める。故萩原虎一氏に師事、後独学。
- ・金沢大学工学部電気工学科卒業
- ・金沢大学大学院工学研究科電気工学専攻修士課程修了
- ・名古屋大学大学院工学研究科電気電子工学専攻博士課程修了
- ・1994年～1995年 MIT(マサチューセッツ工科大学、米国)客員研究員
- ・現在 金沢工業大学 電気系教授、工学博士、金沢交響楽団団員、金沢弦楽合奏団団員
- ・寅年10月生まれ、蠍座、血液型AB型

団長挨拶

本日は金沢工業大学室内管弦楽団「第10回定期演奏会」にご来場いただきまして誠にありがとうございます。

第10回定期演奏会を迎えるにあたり、顧問の金丸先生、協力してくださったOB、OGの方々、卒業間近の4年生の先輩方々、同期のメンバーや後輩達に謝辞を述べたいと思います。また、定期演奏会に到るまでに協力してくれた方々も同様です。

団長に就任して過ごしたこの一年間は練習だけでなく、人間関係や運営の面で悩んだ事もありましたが、部員達や友人達に助けられここまで来ることができました。団長としての責務を果たせたかどうかには疑問が残りますが、それ以上に得たものも多くあったと今では思えます。

また、今回の定期演奏会は室内管弦楽団が発足し、第10回目にあたる記念すべき節目です。金沢工業大学室内管弦楽団は、これからも第15回、第20回とお祝いできるように、日々努力いたしますので、観客の皆様もご声援の方をどうぞよろしく！！では第10回定期演奏会を最後までお楽しみください。

金沢工業大学室内管弦楽団団長 四茂野俊明

OB・OG代表挨拶

本日は金沢工業大学室内管弦楽団「第10回定期演奏会」にご来場頂きまして、誠にありがとうございます。この日を迎えることが出来たのも、一重にこれまで当楽団を温かく見守って来てくださった、オーケストラ・アンサンブル金沢の先生方、設立当初よりご指導頂いている金丸先生、保護者の皆様、そして、多くの関係者の皆様のご尽力があってこそだと感謝している次第です。この場をお借り致しまして、深く厚く御礼申し上げます。

今回は記念すべき第10回ということで、当楽団のOBが全国から集まり、微力ながら演奏で参加させて頂くことになりました。思い起こせば、誰もが当楽団に入ってから音楽を始めた初心者ばかりでしたが、日々の練習や演奏会を経験していく中で上達し、演奏する楽しさを知ることが出来ました。今ではみな社会人となり、仕事に追われる中で楽器を弾くことは難しくなりましたが、今回をきっかけに、学生時代の音楽に対する情熱を思い出せればと思っています。

まだまだ未熟ではありますが、短いながらも私達の伝統と、それを受け継いできた現役生達の演奏を楽しんで頂けたら幸いです。懐かしい顔ぶれに、私達も心浮かれての演奏となりますが、最後までご静聴頂ければ嬉しい限りです。

今後とも皆様方の温かいご支援、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

金沢工業大学室内管弦楽団 OB代表 井出武臣

団員紹介

Conductor 金丸 保典

現役生

1st Violin

飯田 勇輝 (環境化学科4年)
☆河野 聡志 (ロボティクス学科2年)
町田 祐樹 (情報工学科1年)

2nd Violin

貴志 淳 (機械工学科4年)
林 史子 (バイオ化学科4年)
松元梨恵子 (生命情報学科3年)
◎常木 佑太 (情報工学科2年)
木下雄太郎 (情報工学科1年)

Viola

松井 美貴 (情報通信工学科4年)
◎四茂野俊明 (ロボティクス学科2年)
草加亮太郎 (バイオ化学科2年)

Cello

◎齋藤謙一郎 (情報マネジメント学科4年)
石井 宏典 (生命情報学科1年)

☆はコンサートマスター、◎は首席奏者、()内は在籍学科

OB・OG

1st Violin

井出 武臣 (89 情報)
☆大内 晋也 (92 電気)
大槻 浩司 (92 電子)
関口 貴史 (92 電子)
岡本外志行 (96 建築)
白石 結子 (98 情報)
篠原 貴之 (00 物質応用)
辻村 拓 (03 電気)

2nd Violin

浅野 哲也 (92 電子)
小森 博文 (92 電子)
涌田 和美 (94 建築)
滝口久美子 (95 情報)
◎児玉 哲也 (96 環境システム)
橋本千恵子 (98 情報)
寺前 富美 (00 建築)
三島 啓司 (01 建築)
西村 康志 (02 先端材料)
松沢 賢 (03 機械システム)

Viola

多々納真吾 (96 情報)
◎示沢 忠伺 (97 情報)
山田 友子 (98 機械システム)
鈴木新之助 (99 物質応用)

Cello

春田 理恵 (98 情報)
◎村田 剛祐 (00 情報)
舟山 靖人 (01 建築)

Contrabass

◎辻元 要 (99 経営)

☆はコンサートマスター、◎は首席奏者、()内は入学年度と学科

金沢工業大学室内管弦楽団 ～創設エピソード～

本日はお忙しい中、我が金沢工業大学室内管弦楽団の第10回定期演奏会にお越しくださいまして誠に有難うございます。おかげさまで、今回で定期演奏会開催10周年という記念すべき節目を迎えることが出来ました。この場をお借り致しまして、古い話ではありますが我が楽団の発足エピソードを体験談としてご紹介させていただきます。

我が楽団の歴史は1993年が明けた頃、学部4年生であった創設者の井出がヴァイオリンに興味を持ち、学内に同志を募るポスターを掲示したことから始まります。私は入学当初から本学に学生オーケストラがない事を残念に思っていたこともあり、ポスターを見るなり早速連絡をとることにしました。期待を膨らませながら待ち合わせ場所に行くと、そこに居たのは音楽教室でヴァイオリンを習い始めたばかりの井出が1人。この時、あと一年で卒業する井出とまだ1回生だった私の2人だけという状況の中で我が楽団はスタートをきることになりました。

まず2人で始めたことは音楽教室でヴァイオリンの基礎を学ぶこと、他大学の学生オーケストラに混じってオーケストラがどのようなものかを知ること、そして楽団の顧問を探すことでした。入学時に配布された教員紹介から音楽経験のある先生方を探し、尋ねては断られることを繰り返しておりましたが、この時、市民オーケストラでヴァイオリンを演奏されている先生がいらっしゃるという情報を得て、最後に尋ねたのが現顧問である金丸先生でした。以来、誰よりも長きに渡り当楽団に携わって頂くこととなります。

当時、本学公認の学生団体としては「クラブ」、「同好会」、そしてこの年新たに設けられた「サークル」という3つの区分があり、部室や予算が得られるクラブに昇格すること大きな目標の一つでした。しかし、そこに至るためにはサークルから始めて同好会への昇格、そしてクラブへの昇格というプロセスがあり、それぞれに活動実績と年数が必要でした。そして、もう一つの制度が我々の前に立ちはだかります。それは「既存の団体と同質のものは重複して創設することは出来ない」という決まり事であり、既に存在していた吹奏楽部と同質ではないかという意見があったからです。今でこそ十分に認知されておりますが、当時はこれが大きなハードルでした。これは根気勝負しかないと思われ、独自性や活動内容、予算計画を十数枚の報告書にまとめて提出した上で、相手が折れるまで毎日のように大学事務局へ陳述に上がったものです。これが功を奏して次第に事務局とも顔なじみになり、また積極的に応援してくれた学生部会のメンバーの助けもあって、この年の7月に学内初のサークル団体として「室内管弦楽サークル」が誕生しました。

サークル誕生後の最初の目標は10月の工大祭でのミニコンサート開催でした。「String Ensemble '93」と名付けたこのコンサートは、実際のところは本学の放送研究会が毎年工大祭で設置している特設スタジオでの一番組としての企画であり、メンバーもヴァイオリン3名とヴィオラ1

名、チェロとバスは他大学からの学生エキストラという総勢6名の小規模な弦楽合奏でした。楽譜も当時は原譜を入手する経路がなく、代わりにCDショップのクラシックコーナーに置いてあるミススコアを切り張りしてパート譜を作ったり、CDの演奏を耳コピーして写譜したものでまかされたものです。なお、この時に演奏した曲の一つがバッヘルベルのカノンであり、以来、我が楽団の定番曲となっております。このような苦難な状況でありながら本学初の弦楽合奏団という珍しさもあってか、初演ながら100名近い観客が足を止めて聞き入っていた光景が今でも目に浮かびます。このときの手ごたえがその後の活動の原動力となったことは間違いありません。



↑当時のString Ensemble '93の番宣ポスター
実際の演奏風景もまさにこんな感じでした。

また、この頃新たに初心者3名を加えることになり、貸し出せる楽器もなくトレーナーも呼べない状況の中での新人育成に挑むこととなります。演奏技術は井出と私が音楽教室で習った内容をサークルで教えるという方法を取り、楽器は当時韓国製の廉価なものが出回っておりましたのでアルバイトで資金を作って購入し、サークルに寄付するという形で乗り切ることが出来ました。学生にとってヨーロッパ製の楽器など聞いて愕然とする値段だったのに対し、品質はともかく2、3万円程度で入手できる楽器が市場に出てきたことは、我々にとってまさに追い風でした。このようなスタイルは以後の楽団発展の基礎となっています。

1994年はその後の楽団の発展を予感させる年でした。この年、本格的に新人獲得に向けての活動を行い、初めて新入生3名を迎えることが出来たのです。そしてこの年の工大祭ではミニコンサートに加えて、大学主催のイベントである100km歩行の表彰式のBGM演奏という場を得ることができました。これは好機でした。なぜなら表彰は学長先生が自ら行うため、その背中で演奏することは大学への最大のアピールであったからです。これが同好会昇格への布石となったことは間違いありません。その後の数年間、この表彰式での演奏は毎年我が楽団が担当することになります。また、この年から夏休みに夏季強化合宿を行うようになり、こちらは現在まで続く定例行事となりました。

1995年はこれまでの活動内容と実績が認められ、創設3年目にして早くも同好会への昇格を果たした記念すべき年となりました。これを機に名称も室内管弦楽同好会に改めて活動を行うこととなります。また、この年の新人獲得人数は最大となり、団員数は20名以上にまで増えてまさに絶頂期でした。一方、創設メンバーはみな4回生となって半引退状態であり、本来中核を担うべき3回生は1人もいないという運営上の困難は続きましたが、それでも楽団の勢いは衰えることなく、これ以降は最大の目標であるクラブ昇格と定期演奏会の開催に向けて更に奮闘することになります。

そしてその3年後、今からおよそ10年前の1998年、運営を引き継いだ歴代の後輩たちの努力によって念願だったクラブへの昇格を果たし、「金沢工業大学室内管弦楽団」という本来掲げていた楽団名を正式名称として新たな門出を迎えることになったのです。またこれを機に、従来の年間最大行事であったミニコンサート「String Ensemble」は秋の中間発表会的な役割に変貌し、代わって年間の最大目標にもう一つの念願であった定期演奏会の開催を掲げ、その年の12月に晴れて第1回定期演奏会を開催するに至った次第です。クラブ昇格によって全面的に本学の後ろ盾



↑ 第1回定期演奏会(98年12月)
右も左もわからず、試行錯誤の中での演奏会でした。

を得たその後は、定例行事として年度末の大学院学位授与式でのBGM演奏を担当し、また、オーケストラ・アンサンブル金沢からトレーナーを招いてレベルアップを図り、年々演奏曲の難易度を上げて本日に至っております。

世の多くの学生オーケストラがそのハードルの高さから学校主体で創設されている中、このように学生主体で一から作り上げられたオーケストラというのは希有なことで、それこそが我が金沢工業大学室内管弦楽団の魅力であり、誇りであると思っています。もちろん学生だけで立ち上げることに多くの苦難が伴いましたが、それは学生の独立性・独自性を尊重する本学の意思でもあったと感じています。当時を経験したOBが過去を振り返るとき、誰もが「この楽団で過ごした時期が人生で最も楽しかった」と口を揃えて言うことから、最高のクラブであることは間違いありません。これからもOB達意思を受け継いで現役世代が頑張ってくれることを期待したいと思います。

最後に、当楽団のこれまでの発展を支えてくださった先生方、OBの皆さん、そして本日お越しくださいました皆様に厚く御礼を申し上げます。是非、これからも後輩たちの金沢工業大学室内管弦楽団を見守ってやって下さい。本日はご来場ありがとうございました。



↑ String Ensemble'98 演奏後の記念写真(98年10月)
工大祭での演奏は新生の初舞台として欠かせないイベント。
手前のたて看板は創設時に手作りしたものである。

2007年12月1日
金沢工業大学室内管弦楽団 OB
小森 博文

♪♪♪ 金沢工業大学室内管弦楽団の歩み ♪♪♪

金沢工業大学室内管弦楽団は1993年7月に6名の部員でサークルとしてスタートし、1995年に同好会、1998年4月に部に昇格。結成15年目の現在部員14名(1年～院生)。名称は室内管弦楽団ですが、結成当初より管・打楽器はおらず実質、弦楽合奏団として活動しています。団員のほとんどは弦楽器の初心者なので、演奏の水準は決して高いとは言い難いですが、団員それぞれがやりがいや意気込みを見つけながら取り組んでいます。時として背伸びをして難曲に挑戦し、これを1998年より毎年12月に行われる定期演奏会のメインとして目標にすることで、自らのレベルを高めんと試んでいます。また2004年の工大祭より吹奏楽部と共同でフルオーケストラを結成し、毎年演奏しております。1999年10月より、トレーナーとしてオーケストラ・アンサンブル金沢のメンバーに指導を仰ぎ、さらなる向上への足がかりとしています。

■第1回定期演奏会 1998年12月6日(日) 金沢市民芸術ホール

指揮：金丸保典 団長：大嶋将和 コンサートマスター：島津利卓
 ・シャーマン It's a small world
 ・ノース アンチエンド メロディー
 ・メンデルスゾーン ノクターン
 ・パッヘルベル カノン
 ・クライスラー 愛の悲しみ、愛の喜び
 ・J.S.バッハ ブラッデンブルク協奏曲第3・4・5番より第1楽章
 ・J.S.バッハ ホフガト短調
 ・H.パーセル アプデラザール組曲

■第2回定期演奏会 1999年12月5日(日) 金沢市民芸術ホール

指揮：金丸保典 団長：幸谷省吾 コンサートマスター：島津利卓
 ・エルガー 愛の挨拶
 ・J.S.バッハ 管弦楽組曲第3番 Air (G線上のアリア)
 ・スメタナ 「モルダウ」主題 連立交響詩くわが祖国>から
 ・シューマン 子供のためのアルバムより 1. 兵士の行進
 2. あわれな孤児 3. 楽しき農夫 4. 北方の歌
 ・ビートルズ イエスタデイ
 ・R.ロジャース サウンド・オブ・ミュージックメドレー
 ・ヴィヴァルディ 弦楽のための協奏曲二短調「マドリガル風」
 ・レスピーギ リュートのための古代舞曲とアリア第3組曲

■第3回定期演奏会 2000年12月2日(土) 金沢市アートホール

指揮：金丸保典 団長：春田理恵 コンサートマスター：幸谷省吾
 ・チャイコフスキー 組曲「くるみ割り人形」より「花のワルツ」
 ・J.S.バッハ フーガの技法より「Contrapunctus1」
 ・J.S.バッハ 目覚めよ、と呼ぶ声あり
 ・H.パーセル 歌劇「インドの女王」より「シベル(トランペットの調べ)」
 ・H.アーレン 映画「オズの魔法使い」より「Over The Rainbow」
 ・ポロディン 歌劇「イーゴリ公」より「ダッタン人の踊り」
 ・L.アンダーソン PLINK, PLANK, PLUNK!
 ・グリーク 「ペールギュント」第1組曲より「朝」
 ・ヴィヴァルディ 協奏曲ト短調「アラ・ルスティカ」
 ・ラヴェル 亡き王女のためのパヴァーヌ
 ・コレルリ 合奏協奏曲ト短調作品6-8「クリスマス」

■第4回定期演奏会 2001年12月1日(土) 石川県文教会館

指揮：金丸保典 団長：楠英智 コンサートマスター：加藤友子
 ・イタリア民謡 イタリアンメドレー
 ・メンデルスゾーン 弦楽のための協奏曲第3番ホ短調
 ・R.ロジャース マイ フェイバリット シング
 ・M.モノット 愛の賛歌
 ・シューベルト 舞踏組曲
 ・パッヘルベル カノン
 ・ヘンデル 水上の音楽より
 1. Air 2. Bouree 3. Hornpipe 4. Finale
 ・ハイドン 弦楽四重奏曲第17番長調「セレナード」
 ・ホルスト セントポール組曲

■第5回定期演奏会 2002年12月7日(土) 金沢市アートホール

指揮：金丸保典 団長：村田陽祐 コンサートマスター：楠英智
 ・シベリウス アンダンテ・フェスティボ
 ・J.S.バッハ 主よ、人の望みの喜びよ
 ・H.パーセル アプデラザール組曲
 ・エルガー 弦楽セレナーデ ホ短調 作品20
 ・ブリテン シンプル・シンフォニー

■第6回定期演奏会 2003年12月6日(土) 金沢市アートホール

指揮：金丸保典 団長：酒井勇治 コンサートマスター：田内光徳
 ・J.S.バッハ G線上のアリア
 ・シューマン トロイメライ
 ・H.アーレン Over The Rainbow
 ・久石譲 Summer
 ・ワグネル&ハラウ 星に願いを
 ・トレルリ クリスマス・コンチェルト
 ・ウォーロック キャプリオリ組曲
 ・グリーク ホルベルク組曲

■第7回定期演奏会 2004年12月4日(土) 金沢市アートホール

指揮：金丸保典 団長：横部健太 コンサートマスター：田内光徳
 ・モーツァルト 弦楽四重奏曲第4番ハ長調 K.157
 ・ヘンデル オペラ「アルキーナ」よりミゼット、ガボット
 ・J.S.バッハ ゴルトベルク変奏曲より第30変奏曲
 ・テレマン 組曲「ラ・リラ」
 ・ヴィヴァルディ 協奏曲集第9番二短調 RV.236
 ・テレマン 組曲「ドン・キホーテ」

■第8回定期演奏会 2005年12月3日(土) 金沢市アートホール

指揮：金丸保典 団長：青木健 コンサートマスター：辻村拓
 ・メンデルスゾーン 弦楽のための協奏曲第3番ホ短調
 ・シューマン 子供のためのアルバムより
 1. 兵士の行進 2. 北欧の歌 3. 草刈の歌
 ・チャイコフスキー シャンソン・トリステ
 ・パッヘルベル カノン
 ・ホルスト ブルック・グリーン組曲
 ・ヘンデル 水上の音楽より
 1. Air 2. Bouree 3. Hornpipe 4. Finale
 ・H.パーセル ダブル・ディーラー

■第9回定期演奏会 2006年12月2日(土) 金沢市アートホール

指揮：金丸保典 団長：貴志淳 コンサートマスター：飯田勇輝
 ・ヘンデル もろびとごぞりて
 ・イングランド民謡 おめでとうクリスマス
 ・J.S.バッハ 管弦楽組曲第3番 Air (G線上のアリア)
 ・J.S.バッハ 主よ、人の望みの喜びよ
 ・J.S.バッハ 目覚めよ、とわれらに呼ばれる物見らの声
 ・ヴィヴァルディ 弦楽のための協奏曲ト短調 RV156
 ・ムソグルスキー 展覧会の絵よりプロムナード
 ・レスピーギ リュートのための古代舞曲とアリア第3組曲

